

防災 おやまだ

平成20年3月20日発行

第4号

小山田地区防災連絡協議会



熱く訴える米山正幸氏（ぴあホールで）

備えあれば憂いなし

**減災はできる！
被害を最小限に食い止める**

- ・住宅の耐震性強化
- ・水を備える
- ・避難場所を決める
- ・家具の転倒防止
- ・電灯の落下防止
- ・窓ガラスの飛散防止
- ・スリッパ・笛・懐中電灯を身近に用意
- ・災害伝言ダイヤル（171）
- ・台所の安全対策



私たちのまちの防災訓練

小山町自主防災訓練

小山町では平成19年11月25日に消火栓からの放水訓練を町内2カ所で実施。

小山公会所にて小住さん(中消防署)を講師に、応急手当講習テキスト「救急車がくるまでに」を用い、救急救命の講習やAEDの使用方法を学びました。



和無田町自主防災訓練

和無田町では平成19年11月25日の和無田町ふれあい事業「和無田ふれあい2007」を実施の時、地震発生を想定し、防災訓練を行ないました。和無田構造改善センターにて避難訓練や市職員講師による防災出前講座「災害からいのちを守るために」を開催し、日頃からの防災への意識向上と備えの大切さを学びました。



六名町自主防災訓練

六名町で平成20年1月6日に六名町集会所を拠点とし自主防災訓練が行なわれました。避難訓練では、近隣住民や四肢など身体の不自由な方への声かけも行なわれました。



光輪寺で放水訓練

情報伝達ゲームを組単位で行い、いかに情報を的確に伝達するかを競いました。大切な情報は口伝えではなくきちんと紙上に文字にして伝える必要があります。



消火器の使用訓練と初期消火



みんなで考える町独自の訓練へ 大盛況の被災体験講演会

小山田地区防災連絡協議会
会長 萩 伸元

あすにも起きるかもしれない自然災害。私たちの町は"自分たちで守ろう"と平成18年、地区防災連絡協議会を設立しました。今まで、隊員だけの見学が主だった地区防災訓練を改め、各町ごとに独自に実施し、いざと言う時に役立つ訓練へと移行することにしました。

意識啓発には「標語」を募集。一般、小中学生から208点の応募から、入選作をカラー印刷。A2判1枚もので、20年版「防災カレンダー」1,800枚を全地区民、病院や公会所など公の機関に配り喜ばれました。カレンダーは伊勢、毎日の両新聞の地方版トップ記事に掲載されたほか、毎日新聞のホームページで防災カレンダー：意識啓発へ配布、標語盛り込む、四日市小山田地区として全国に紹介されました。

一方、講演会の2月1日、青山里会のぴあホールで、阪神淡路大震災を体験された米山正幸氏が、日ごろからの、人のつながりや訓練の大切さを熱く訴えられ、多くの人が深い感動を受けました。

これからも、明るく住みよい小山田にするため、温かいご支援と力強いご協力を切にお願い申します。



小山田消防分団の活動

分団長 伊藤 忠夫

小山田消防分団は、22名の団員で活動しています。

昨年、「防災おやまだ」第2号に、小山田消防分団の活動①火災の消火活動②応急手当・救命講習の普及③定期業務活動の3点を載せていただきました。

今年は、地震災害の備えや日頃からの地域とのコミュニケーションを目標に、更なる活動のレベルアップを目指します。

グラ！グラ！グラ！！！！地震だ！

地震は突然やってくる。巨大地震程前触れなく突然やってくる。近年、各地で大地震がたくさん発生している。（表①）

表① 近年の主な地震

発生年月日	地震名	最大震度
1995/1/17	阪神淡路大震災	7
2004/10/23	新潟県中越地震	7
2005/3/20	福岡県西方沖地震	6弱
2007/3/25	石川県能登半島地震	6強
2007/4/15	三重県中部地震	5強
2007/7/16	新潟県中越沖地震	6強

小山田地区も「阪神淡路大震災」「三重県中部地震」では激しく揺れたが、幸いにも被害を受けなかった。

以前から、「東南海・南海地震」「東海地震」の大地震が近い将来必ず起こると予測もされている。

これらの災害に備えて平成18年7月に「小山田地区防災連絡協議会」が組織され、各地区で各種の取り組みが開始された。

その1つに、今年2月1日に北淡震災記念公園野島断層保存館：米山氏（震災当時は消防団員として活躍）を講師に招き、防災講演会「野島断層からのメッセージ～震災といのち、人とのつながり～」が開催された。

それ以前にも、平成16年8月20日に四日市市役所防災対策課の人見講師に「災害から命を守るために～あなた、家族のいのち 救えますか？～」の講演も開催されている。

これらは、阪神淡路大震災を教訓とした講演であり、地震への備えや日頃からの地域のコミュニケーションの大切さ、命の尊さを熱く語られたものであった。

特に、災害が広範囲に同時に発生すると公的機関の機能は出来なくなり、阪神淡路大震災では、8割もの人が家族や近所の人に救出されたのが実体であった。

（グラフ①）

北淡町では、地震発生当日に全ての人の救助が行われ、犠牲者の発生はあったものの安否の確認がなされた。この素早い対応は、大都会の神戸と異なり、お年寄り・1人暮らしが多い中、日頃のコミュニティが図られていたことが大きな効果を発揮したものと評価をなされた。

結局、得られた教訓は「**自分たちの命は、自分たちで守る！**」、「**自分たちの町は、自分たちで守る！**」**発災時の命綱は地域のコミュニティを図ることが肝要！**であった。

小山田地区も過疎化が進み、お年寄り・1人暮らしの人が増えている。これらの人を災害から守るための活動が求められている。

消防分団としては、特に地域と密接した活動が求められており、北淡町の取り組みを手本にして、大地震の防災（災害を防ぐ）→減災（被害を減らす）への取り組みとして①災害にあったときに被害に合わない対策の広報 ②被害に合った時の速やかな救助のため、お年寄り・1人暮らしの人を調査し、マップ作成に取り組む計画です。

小山田消防分団は、小山田地区防災連絡協議会の各種団体と連携を密に取り組みますが、成果を上げるには地区民の理解・協力が必要です。

阪神淡路大震災時の救出率

